

シース紹介 Study Example Introduction

～私達の研究を紹介します～ TEL:0766-56-0604 MAIL:tpu-liaison@pu-toyama.ac.jp



生物工学科
助教
奥 直也

経歴

平成14年 東京大学大学院
農学生命科学研究科
水圏生命科学専攻修了
平成14年 米国国立ガン研究所
分子標的開発部門 客員研究員
平成17年 ㈱海洋バイオテクノロジー研究所
有用物質利用領域 研究員
平成19年 サッポロビール㈱
価値創造フロンティア研究所
嘱託社員
平成20年 (独)理化学研究所
化合物バンク開発研究グループ
協力研究員
平成21年 富山県立大学

研究分野

新たな医薬や研究用試薬の開発につながる生理活性物質を、天然生物素材から探索しています。特に、これまで十分に検討されてこなかった水圏の微生物に焦点を絞って研究を進めています。

活躍フィールド

海洋生物、陸上植物、微生物などからの医薬リードの探索および食品機能性成分の同定に取り組んできました。様々な分離法を駆使して微量な成分を単離し、NMRや質量分析計などを用いた機器分析や化学誘導により、構造を明らかに出来ます。

メッセージ

東京近郊への人・モノ・金の一極集中は止まるところを知りませんが、富山は豊かな自然とバランスの良い産業構造、さらには東京、大阪、名古屋の国内主要都市は言うに及ばず、経済発展の著しい中・韓国へのアクセスに恵まれています。本学の充実した設備、研究レベルの高さ、さらに大学法人化していない故の“大らかさ”を「地の利」「人の和（輪）」の中で活かして頂き、富山が日本の経済を牽引する新たな拠点となるよう、お役に立てればと思います。どんな些細なことでも結構ですので、どうぞお気軽にご相談下さい。



生物工学科
助教
野村 泰治

経歴

平成11年 京都大学農学部生物機能科学科卒業
平成13年 京都大学大学院
農学研究科
応用生命科学専攻修士課程修了
平成16年 京都大学大学院
農学研究科
応用生命科学専攻博士課程修了
(日本学術振興会DC1特別研究員)
平成16年 日本学術振興会PD特別研究員
平成19年 米国
Donald Danforth Plant
Science Center
博士研究員
平成21年 日本学術振興会海外特別研究員
富山県立大学

研究分野

植物が生産する二次代謝化合物が植物内でのように合成されているのかを生化学、分子生物学および生物有機化学的視点から解明しています。

活躍フィールド

植物二次代謝の生合成および代謝系の解明。また、その生合成制御メカニズムの解明。それらの研究に基づいた、植物二次代謝の産業への利用や、高耐病性植物の作出などの応用的展開も視野に入れています。

メッセージ

植物は約20万種類ともいわれる非常に多種多様な二次代謝化合物を生成、蓄積しています。それらのほとんどは植物内における機能がまだ明らかにされていませんが、ユニークな生理活性を有するものが多く、抗癌剤をはじめとした医薬や化粧品添加物あるいは農薬のリード化合物として利用されています。また、近年ではバイオ燃料の原料として用いられるなど、無限の可能性を秘めています。基礎的な研究からそれらの未知機能を明らかにしつつ、産業利用への展開を図ることで社会に貢献していきたいと考えています。

地域連携センター便

次世代の産学連携

富山県立大学 地域連携センター所長 伊藤 伸哉



大学の研究能力を地域社会に還元する手段としての産学連携は、今や多くの大学に根付いた感があります。これは国立大学を中心とした多くの国公立大学が法人化とそれに伴う交付金のカットにより、外部資金を得ることを目的として産学協同を働きかけることが動機となったのは事実です。たまたま「とやま産学官金交流会2009」の前日に科学研究費の特定領域研究報告会（これは海洋化学系のバリバリの基礎研究である）に出席し、翌日、産学交流に関する分科会をオーガナイズし、両者で感じたことは、自分の専門からやや離れた異分野交流が新しい成果を生むには非常に重要であるという点です。確かに自分の専門分野は心地良いかもしれません。しかし、そこから少し出て今までに経験のない分野と組むことにより、より優れた成果が得られる場合が多くあります。これは、新しい学問分野が融合領域で生まれてきたという点からも明らかです。そして、異分野交流の成果は応用研究や技術開発にも当てはまるものが多くあります。問題はこうした異分野の交流をいかに行うか、そのシステムをいかに作り上げるかにかかっています。

例えば、一部の企業では産学連携を担当する専

任の人材を配置し、大学との共同研究を行い、実用化にまでつなげています。これは1つの提案ですが、現在、各大学が雇用している産学連携のコーディネーターを富山県が採用して富山県立大学や富山大学、各試験研究機関に派遣してはいかがでしょうか。各大学が雇用する場合は、どうしてもその組織を超えることが困難です。技術コーディネーターを主要研究機関に配置し、協働させます。この場合、「このテーマは富山県立大学の〇〇先生と富山大学の〇〇先生、これなら工業技術センターに加わってもらってもいいと思うが…」といったように、より広域的確に対応出来るでしょう。

研究機関を除く官の役割はコーディネート業務と資金援助にあります。こうした異分野が交流出来るシステムを富山県内大学と研究機関全てに組織し、資金援助出来れば、非常に優れたマッチングや共同研究組織が可能となります。ハコモノ拠点よりも、こうした組織（ソフト）と人材に資金を投入する方がより効率的な産学連携が推進出来るでしょう。次世代の産学連携のキーワードは、異分野交流と連携の広域化・組織化だと思います。

卒業論文テーマを募集します

募集分野

工学部

機械システム工学科
知能デザイン工学科
情報システム工学科
生物工学科

大学院工学研究科(博士前期課程)

機械システム工学専攻
知能デザイン工学専攻
情報システム工学専攻
生物工学専攻

短期大学部

環境システム工学科

応募方法

申込書に応募テーマなど、必要事項を記入の上、平成22年2月末日までに地域連携センターにFAX、又はE-Mailにてお申込下さい。

スケジュール

募集期間(随時)

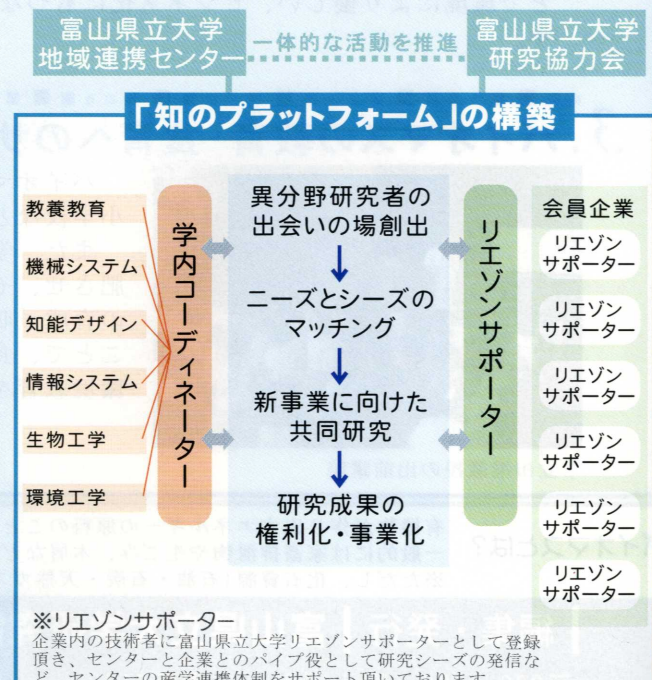
申込受理
(9～2月末日)

教員との
マッチング面談
(9～3月末日)

結果通知
(9～3月末日)

研究開始
(4月～)

地域連携センターと研究協力会のリエゾン体制



FAX:0766-56-0391
E-Mail:themabetu@pu-toyama.ac.jp